みんなの輪通信

社会福祉法人 みんなの輪
vol.95
http://www.minnanowa.org
発行 2023年6月19日
《編集発行》社会福祉法人みんなの輪　〒981-3602 宮城県黒川郡大衡村大衡字鐙沢12番54　TEL（本部直通）：080-2205-1820

理事長挨拶

今日は5月15日月曜日、曇り時々雨の肌寒い日です。20日の田植えに向け忙しい日々ですが、新緑とカエルの合唱に癒されています。さて、皆様に楽しみにされ好評をいただいた(笑)このコラムも今回が最終、6月10日を以て、みんなの輪理事長を目出度く卒業します。この通信がお手元に届く頃は田んぼの草取りに精を出しているでしょう。普通なら、ここで理事長の思い出を語るシーン？でしょうが、普通じゃない私は、イタチならぬ理事長の最後っ屁を放ちます。それは、皆さんに自分の中の「優生思想」を見つめてほしい、というお願いです。

「精神遅滞者や障碍者、病人など、未開社会では淘汰されるが、文明社会では保護し、子孫を残させている。最も条件の悪い人間に繁殖させ続ければ、人間全体の血統を劣化させ進化を妨げる」「家畜を品種改良し、優秀な血統を残したのと同様、人間も障碍者など劣等な血統を排除し優秀な血統を残すべき」（「遺伝的天才」ゴールトン著）19世紀末から盛んになった「優生思想」の基本です。現在も一部の人がノーベル賞受賞者の精子を欲しがるのも同じ理屈ですね。皆さんは、旧優生保護法の下、障碍を持つ人々が断種、つまり不妊手術を強要され、その被害者たちが国を訴え、勝訴したことはご存知でしょう。

旧優生保護法は1948年「優生上の見地から不良な子孫の出生を防止」するため、まさに19世紀以来の「優生思想」を基に制定され、障碍を持つ人々に中絶や不妊手術を強制できるというものでした。1996年母体保護法に改正されるまで約50年間、自らの意思によらず中絶・不妊手術を強要された障碍者は、厚労省の調査で約8万4千人とされますが、他にも記録がない被害者が多く存在すると言われています。特に女性は、生理介助の負担から親が手術を望んだり、施設入所の際、施設側から要望されたりした場合、記録に残らないことも多くありました。多分みなさん、旧優生保護法なんては知らなかった、あってはならない事だ、自分は「優生思想」など持っていないし障碍者差別もしないと思う方が殆どでしょう。勿論、障碍を持つ人を「不良の子孫」とし、排除しようとしたのは日本だけではありません、「優生学」が盛んだったヨーロッパの国々、現在福祉国家とされるスウェーデンやデンマーク、スイスなどでも「断種法」が制定され、ナチスドイツでは国を挙げて障碍者殲滅策がとられ、数十万人を超える障碍児者が殺されました。私が出産した頃とは異なり、今は妊娠3か月位で胎児の性別が判り出生前診断も発達してきました。それでも「男でも女でも五体満足で健康に」という願いは共通でしょう。しかし「五体満足で健康に」という願いそのものが「優生思想」であり「障碍者差別」だと問われたことはありませんか。出生前診断を受け、何らかのリスクを指摘された人の9割が中絶を選択している現実が、この問いを突きつけています。障碍者差別などしていない、しかし障碍を持って生まれる子は嫌だ＝障碍者は嫌だ、つまり既に生まれている障碍者は差別しないが、これから生まれる障碍者は排除するということになります。まさに立派な？「優生思想」、障碍者差別だと思います。私は中絶を選択する人を非難しているのではありません。自分の中の「優生思想」と向き合った上で選択して欲しいだけです。

私は自分の中の「優生思想」と向き合ってきました。みんなの輪を設立してからは、より深く向き合わざるを得ない日々でもありました。単に障碍者差別だけではなく、性差別、学歴や収入、社会的地位の上下、更には「家柄」まで、残念ながら「優生思想」は社会の至る所に深く根を下ろしています。私たち一人一人が自らの内なる「優生思想」と向き合い葛藤を恐れず生きることが、近い未来に、より自由で平等な社会を実現していくと信じています。

みんなの輪での私の役割は終わりますが、どうぞ今後とも、みんなの輪へのご支援ご理解をお願い申し上げます。ありがとうございました。

みんなの輪理事長　吉武　洋子

みんなの輪　ホッとニュース

2023年4月3日、大衡村の法人本部において今年度の辞令交付式を行いました。新管理職も含め計22名が出席し、吉武理事長から一人ひとり辞令を受けました。今年度は、来年4月新規オープン予定の「わ・は・わ広瀬」の施設建設と諸々の準備業務をはじめとし、大崎市田尻における「ひなた農場」の経営改善、大郷町羽生の「グループホームあい」の事業安定等、法人一丸となって取り組むべき課題が山積しております。ますますみんなの輪の「輪」と「和」が試される一年となることでしょう。本部としても覚悟と自覚を持って法人経営に取り組んでいきたいと考えております。今後も「障害のあるなしにかかわらず誰もが安心して暮らせる地域社会をめざして」力強く邁進いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

法人統括　仲野谷　仁

みんなの声

2021年11月にみんなの輪に入職し、あっという間に数年経っていました。主にあいコープみやぎ様から頂いた仕事の業務に携わっているのですが、野菜の小分け作業や清掃作業等々本当に様々なお仕事があるのだなと驚きました。他にも、請負のお仕事や市役所での販売会、レクリエーション活動も行われています。様々な活動を通して、毎日が新しい発見と学びの連続です。至らない点があったり、大変だと感じたりすることもありますが、それよりも次はどんなことが待っているのか考えると楽しく、そう考える自分に驚きました。こちらに入職する前だったら、不安に思っていたはずです。なぜそう思うようになったのか考えたのですが、みんなの輪にかかわる方が楽しそうだからだと思いました。法人の理念に誰もが安心して暮らせるとありますが、安心できた先に楽しさがあると考えています。まだまだ未熟ですが、みんなが安心して楽しく過ごせるよう日々努力していきたいと思います。

わ・は・わ沖野　菅野　裟織里

▼事業所ピックアップ▼

【グループホームいちご】

●事業内容　共同生活援助事業、短期入所事業
●活動モットー　みんな元気に!みんな楽しく!そしてみんながホッとできる場所であるように!
●活動内容　4名の入居者さんの地域生活をサポートするほか、２床分の短期入所用の居室も準備しており、障害者の自立体験やご家族の介護負担の軽減等を目的に利用できる機能を備えています。また、美里町における障害者の地域生活支援拠点としての役割も担い、町内在住の障害者やその家族が安心して地域生活を送れるよう柔軟にサポートします。

住所：〒987-0015 宮城県遠田郡美里町青生字中ノ橋173
TEL：0229-25-8842　FAX：0229-25-8372
E-mail：ichigo@minnanowa.org

グループホームいちごには身体障害、知的障害、精神障害がある40代から60代までの男性4名が入居しています。建物は誰でも利用できるようにバリアフリーとなっており、浴室やトイレ等も工夫されています。職員は365日24時間常駐し、生活する上での身体介護をしたり、体調や人間関係に関する相談に乗ったりしています。平日は日中活動として通所施設を利用しており、休日になるとヘルパーを利用してスポーツ観戦に行ったり、職員と買い物に出掛けたりと誰もが過ごしている日常と同じ暮らしをしています。これまではコロナの影響でホームで過ごすことが多くありましたが、今後は積極的に外に出て、入居者の皆さんとワイワイと賑やかに楽しみ、活動から帰ってきたらホッと気持ちが安らぐ、みんなのマイホームにしていきたいと思います。

グループホームいちご　村上　貴彦